報告書

2025年　10月　28日

屋　号	NPO法人えひめ311	氏　名	代表理事 [redacted]
題　名	ドローンによる今治山林火災被害状況調査と二次災害防止に向けた取り組み		
期　間	2025年5月31日～2025年9月30日		

概　要

①山林火災の被害状況を知ること
②山林火災の被害を減らすために平時から何ができることはないかを考える
③さらなる災害を抑え、今後被害を生まないために何が必要なのかを考える

内　容

2025年8月2日（土）13時～16時　場所：NPOVサポート事務所、近見山付近　参加者5名

【内容】　事業打ち合わせと近見山竹林伐採
本事業の打ち合わせを行った後、火災の被害が大きかった近見山の竹林伐採を行った。近見山は、今治地域の観光スポットであり、足を運ぶ方も多いので、早急な復旧活動（山の整備）が求められているため、視察も含め伐採作業を行った。大学生の参加があり、災害支援の技術指導も行われた。

2025年8月5日（火）13時～16時　場所：バリクリーン　参加者7名

【内容】　事業打ち合わせとバリクリーン施設見学
本事業の打ち合わせを行った後、会場として選定したバリクリーンの施設見学を行った。バリクリーンはゴミ処理場ではあるが、災害時には体育館が避難所となる。もちろん、災害時の備蓄も整えられており、今治山林火災の時も実際避難者の受入れを行ったと施設管理者から説明を受けた。すぐに避難者を受け入れることができる施設が地域にあることは地域の強みであると思った。また、災害発災時は、バリクリーンの従業員が避難者を受け入れるが、すぐに今治市役所の方が来て受け入れを行うという仕組みも整っていることに地域ぐるみで減災社会づくりを目指していることが理解できた。

2025年9月7日（日）13時～16時　場所：バリクリーン　参加者5名

【内容】今治山林火災の被害状況を知り、支援活動の報告を聞く
Vサポートの阿曽沼氏から今治山林火災の被害状況を地図を元に伺う。広範囲に延焼したことや、飛び火で思いもよらない場所が燃えていたこと、住民の動きなどの詳細を知ることができた。それを踏まえ、どのような消火活動が行われたのかを伺った。消防体制の限界を補うように地域住民が消火活動に加わったことなどをお聞きして、良く言われるが『日頃からの地域のつながりや地域住民同士が支え合う重要性』を改めて感じた。また、阿曽沼氏からは過去の災害支援活動の貴重な話も聞くことができ、過去の支援経験が現在につながっていることや災害支援のスキルや心構えなど少人数で聞くのはもったいない話ばかりだった。模造紙にメモをし、ポイントをまとめた。

2025年9月28日（日）10時～12時　場所：バリクリーン　参加者7名

【内容】今治山林火災の被害状況の共有と支援活動（特に民間支援）の報告、ドローン体験
地域の建設会社の方と阿曽沼さんが消防署員が周り切れないところを消火にあたった活動の報告を受けた。山の中では、一見火種はないように見えるが、枯れ葉や下草の中で煙が上がっているところなどもあり細かな消火活動が延焼を防ぎ被害をおさえることに貢献することが分かった。公助だけでなく共助・近助の力が地域を守った良い事例だなと関心した。また、ドローンを使った災害支援の話も伺うことができ、広範囲に見守ることができることや温度を感知するドローンもあり山林火災では活躍できることなどを知った。参加者が少なかったのでドローン体験は小規模で行ったが、基本的な操作は難しくなく身近に感じた。様々な法律や規制などがあり外でドローンを飛ばすことは難しい点もあるが、災害時には大きな役割を果たすツールになるのは間違いないと思った。

2025年9月28日（日）13時～16時　場所：バリクリーンと桜井駅周辺山林火災跡　参加者9名＋愛媛県防災士会6名

【内容】支援者同士の意見交換と二次災害防止に向けた活動
バリクリーン内で愛媛県防災士会のメンバーの方と合流し、今治山林火災のボランティアで今まで一緒に活動した支援の振り返りを行った。一緒に活動をしたのは3回だが、災害支援の経験が豊富かつ専門性もある防災士会のみなさんから得たことは多く、今後の活動に活かしていくとともに、今後も連携しながら支援に取り組んでいくことを約束した。
その後、火災で被害を受けた農園や山林へ向かい二次被害防止に向けた取り組みとして、山の手入れを行い、波板の設置や竹林の伐採を行った。その中で同じ山でも延焼している部分としていない部分がある山に登り防火帯の有無でこんなに被害の差がでることを目の当たりにした。今回の山林火災の教訓を生かすためにも防火帯を整備は早急に考えていかなければならないことであり、また、山の管理をするための担い手不足で山が荒れていることが山林火災の拡大の大きな原因なんだと理解した。

課題・問題点

・8月7日に九州地域（福岡・熊本・鹿児島）で豪雨被害が起こり、当法人としても今までの支援活動のつながりから被害状況確認のために九州入りしており、事業の開始が遅れ広報も十分できなかったことを反省しています。

・災害から約半年しか経っていないのに災害に対する意識がすでに減っている感じがした。能登半島地震などとは災害の規模が違うとは思うが、災害の大小に関わらず地域で災害に対する意識を持続することの難しさは課題だと感じている。

今後の活動・対策

・今後も継続的に山の防火帯の整備を人を募って実施していきたい。それこそが災害を意識し続けることにつながる。

・災害時の支援活動の継承という点も今後重要になっていくかと考えています。活動できるマンパワーが増えることは地域力を向上させ、自分の地域を自分で守っていくことになる。

・二次被害防止に向けた取り組みはもっとたくさんあると学んだので、自分の地域でも実践していきたい。